

業 務 名

交通安全教育・啓発活動の推進

○業務に関する統計

項 目	統 計 の 推 移				
交通事故死者数	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	単位
	174	187	163	167	人
高齢者に対する交通安全教育実施人数	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	単位
	66,782	79,751	56,439	36,869	人
シートベルト着用率	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	単位
	89.0	88.5	90.7	91.5	%
飲酒運転による交通死亡事故件数	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	単位
	13	20	23	24	件

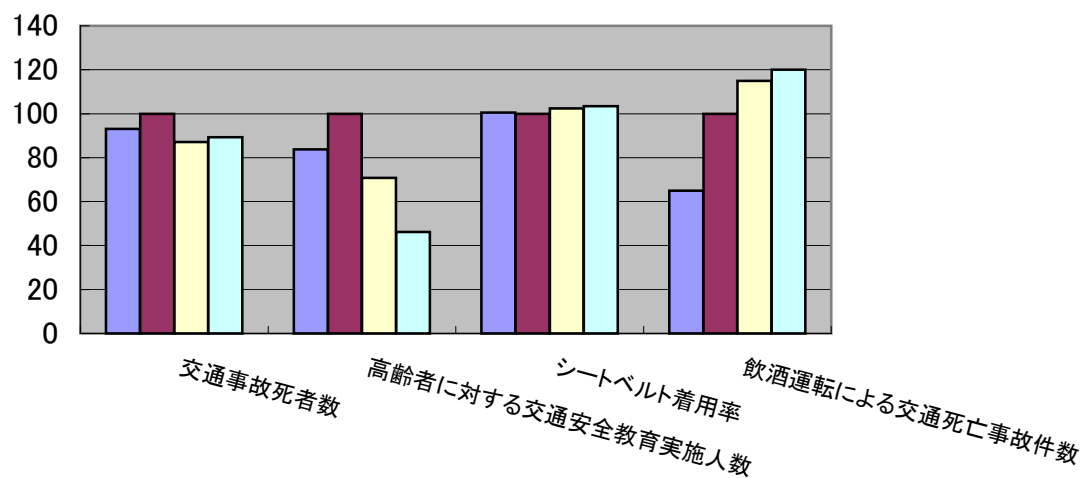
統計の推移

■平成15年

■平成16年

■平成17年

■平成18年



< グラフは、平成16年を100とする指数で表した。 >

○業務の主なコスト

№	事 業 名	平成18年度事業費(千円)	平成19年度事業費(千円)
1	交通警察費	38,321	32,157
2	地域交通安全活動推進費	2,649	2,528
3	安全運転管理者講習実施費	31,428	31,093
4	死亡事故抑止重点対策事業費	1,467	971
5	交通事故分析等の高度化推進事業費	18,513	0
6	交通弱者に対する交通安全教育推進事業費	27,800	0
7	民間委託による交通安全教育・啓発活動事業費	-	27,825
合 計		120,178	94,574

○平成18年の取組み

●幼児・児童に対する交通安全教育については、関係機関・団体と連携し、年齢に応じた段階的な交通安全教育を実施したほか、「交通弱者に対する交通安全教育推進事業」等による参加・体験型の交通安全教育を集中的に実施した結果、歩行中の子どもの交通事故死者はなかった（自転車乗用中の死者は1人（前年比+1人））。

●高齢者に対する交通安全教育については、各警察署ごとに高齢者事故の多い地区を「高齢者交通安全教育ステップアップ地区」に指定し、総合的な交通事故防止対策を実施したほか、「高齢者交通安全サポート郵便局」の指定、「シルバー交通安全サポートガイド」の委嘱による一口交通安全指導等を実施した。また、高齢ドライバーに対しては、「高齢ドライバー指導者研修会」、「高齢ドライバー大会」等の諸対策を実施した。

その結果、高齢者の交通事故死者は70人で、前年比+3人と増加したものの、高齢者交通安全教育ステップアップ地区における高齢者の死者は2人、前年比-8人と大幅に減少し、三重県内における高齢ドライバーの死者は22人、前年比-5人、高齢者の自転車乗用中の死者は8人、前年比-3人といずれも減少した。

●シートベルトの着用促進については、関係機関・団体と連携したシートベルト着用体験指導や交通安全キャンペーン等においてシートベルトの着用促進の広報啓発に努めた結果、着用率は91.5%、前年対比+0.8ポイントと向上し、四輪乗車中の死者の着用率は43.7%、前年対比+7.7ポイントであった。また、チャイルドシート着用向上対策については、各種の交通安全イベント等において取付指導や使用促進に向けた広報啓発活動に積極的に取り組んだものの、使用率は57.9%、前年対比-2.1ポイントと減少した。

●飲酒運転対策については、関係機関・団体と連携し、飲酒運転根絶推奨プレートの作成、飲酒運転根絶や街頭活動を積極的に推進したが、飲酒運転による死亡事故は24件、前年対比+1件と前年を上回り、依然として後を絶たない状況であった。

○課題を踏まえた平成19年の取組み

●幼児・児童の交通安全教育については、基本的な交通ルールの遵守、交通マナー及び交通事故に遭わないための交通行動を身に付けさせるため、交通事故実態を踏まえ、道路の横断の仕方、飛び出しの危険性、自転車の正しい乗り方などについて繰り返し指導していく必要がある。このことから、教育委員会、学校、家庭等と連携して、通学路での街頭指導、「ヒヤリ地図」作成、自転車の乗り方教室等などの交通安全教育等を推進する。

●高齢者の交通安全教育については、交通死亡事故抑止対策の効果があつた「高齢者交通安全教育ステップアップ地区」を中心に、関係機関・団体と連携して、対象に応じた参加・体験・実践型の交通安全教育を推進する。特に高齢者の死者のうち、歩行中・自転車乗用中の交通弱者による事故が57.1%を占めていることから、高齢者交通安全アドバイザー、地域交通安全活動推進委員、シルバー交通安全サポートガイド等の交通ボランティアとともに、あらゆる機会を捉えた交通安全教育や高齢者世帯への訪問指導を推進する。また、高齢者街頭指導強化日及びセーフティー・バイシクル・デーにおける街頭活動を始め、「高齢ドライバー安全運転大会」や「高齢ドライバー指導者育成研修」など、増加する高齢ドライバーに対する各種の交通安全対策を推進する。

●シートベルトの着用率が全国平均を下回っていることから、関係機関・団体と連携した効果的な街頭活動キャンペーンやシートベルトコンビンサーによる体験型教育を実施する。また、チャイルドシートの使用率が減少していることから、より一層の意識高揚を図るため、保育所・幼稚園、大規模小売店等において、保護者等へのチャイルドシートの取付指導や広報啓発活動を推進する。

●飲酒運転の根絶については、飲酒運転根絶気運が高まっているこの時期を絶好の機会と捉えて、関係機関・団体と連携した「飲酒運転根絶キャンペーン」を強力に展開するほか、あらゆる広報媒体を活用して、飲酒運転の危険性や反社会性等を訴える広報啓発活動を展開する。また、飲酒運転体験ゴーグル等を使用した運転者教育の推進や自動車運転代行業等飲酒運転の根絶に効果のある業界の健全育成を図り、飲酒運転の根絶に向けた社会環境づくりを推進する。